



2023 学びの丘学園

第9号

おかのうえのぼくら

1月12日発行

文責:学びの丘学園コーディネーター 上野陽二

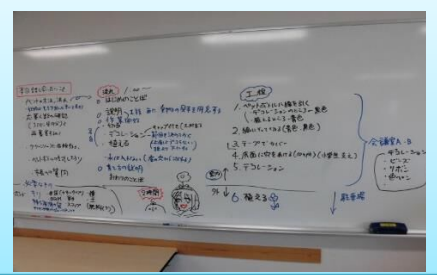
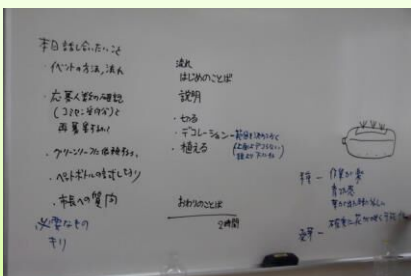


2024

明けましておめでとうございます。皆様にはおかれましては、輝かしい1年のスタートを切られたことと思います。昨年は、学園の授業への支援（ふるさと学習等）や子どもたちの地域での活動（自由ヶ丘文化祭り等）にご理解とご協力いただき、有難うございました。お陰様で、子どもたちも「ふるさと自由ヶ丘」を知るとともに、自分は地域に対して何ができるかを少しずつではありますが、意識し、行動に移すことができるようになってきています。これもひとえに、地域・家庭の皆様のおかげだと感謝しています。本年も引き続き、小中一貫コミュニティ・スクールを推進してまいりますので、よろしくお願い致します

明けましておめでとうございます。皆様にはおかれましては、輝かしい1年のスタートを切られたことと思います。昨年は、学園の授業への支援（ふるさと学習等）や子どもたちの地域での活動（自由ヶ丘文化祭り等）にご理解とご協力いただき、有難うございました。お陰様で、子どもたちも「ふるさと自由ヶ丘」を知るとともに、自分は地域に対して何ができるかを少しずつではありますが、意識し、行動に移すことができるようになってきています。これもひとえに、地域・家庭の皆様のおかげだと感謝しています。本年も引き続き、小中一貫コミュニティ・スクールを推進してまいりますので、よろしくお願い致します

3月の目標達成めざす子どもおとな会議



A班『花いっぱいイベント』

令和6年3月24日（日）開催の花いっぱいイベントの具体的な活動の審議と、ペットボトルを使った植木鉢の見本作成。

B班『ポアッキー・マップ』

小中学生やコミセンの役員や区長様にご回答いただいたアンケートをもとに、現地確認をして手作りマップを作成中。

C班『子どもおとな食堂』

A班の令和6年3月24日（日）開催の花いっぱいイベントとタイアップして、チラシ配布と調理したものを配布予定。

【ベトナム移住の方の一言】（出会いがあり会話した時の言葉より）

子どもたちが主体的に関わり、志を同じくし、自ら考え計画し、行動する子どもたちを育てようとしている「子どもおとな会議」には興味があります。ベトナムの子どもたちは、貧しくても生き抜くために、自ら考え判断し、自主的に行動する力を持っています。日本の子どもたちもそうあって欲しい。

育成部会代表者による子どもたちへ感謝の訪問



自由ヶ丘南小学校（左：5の1、右5の2）感謝と呼びかけ



自由ヶ丘小学校（左：5の1、右5の2）感謝と呼びかけ



自由ヶ丘中学校（左：新生徒会役員任命式見守り、右：生徒への感謝と呼びかけ）

ふるさと「自由ヶ丘」に貢献する子どもたちへの「感謝」とさらなる協働活動と呼びかける育成部会代表

居場所づくりとしての「寺子屋」

昔は、寺子屋といえば「読み・書き・そろばん」を教える庶民の教育施設と言われていました。しかし、現在は、子どもたちの居場所という考え方が主流となっています。自由ヶ丘地区コミセンに「寺子屋」ができて丸2年、南小学校にできて8ヶ月が過ぎました。登録者数は、コミセンが80名を超え、南小が30名を超えてきています。この活動を通して見えてきた良さは次の通りです。

1. 自分の課題を持ってきて課題解決に取り組むようになってきた。
2. 上級生が下級生に教える姿が増えてきた。
3. 学校では見られない縦の関係ができつつある。
4. 自宅ではできない学びの場として、「寺子屋」を活用している児童が増えてきている。
5. 「寺子屋」でわからないところがわかるようになった子どもが増えつつある。（自信に繋がっている）
6. 「寺子屋」の経験を友達に伝え、「寺子屋」に誘って連れてくる子どもが出てきた。
7. 学習面において、困ったときの駆け込みの場としての役割がある。
8. 人数は少ないが、保護者の相談にのり、部分的ではあるが、連携して子どもを見守ることができる。